

オオハンゴンソウの特徴

日野郡内では、河原や休耕田に群生している光景が見られます。生命力が強く、湿った所や寒い所でも生育することができるため、一度入り込んでしまうと背丈が2mになることもあり、駆除が大変な植物です。

花

北米原産のキク科多年草の草本です。花期は7月～9月まで続き、直径が10cm前後の大きな黄色い花を咲かせます。



種

土の中で眠っていて、数年後に発芽してくる場合があります。

根

大変生命力が強い植物で、根の破片から再生することができます。一つの根っこがいくつかの破片に分かれた場合、破片の数だけ再生する恐れがあります。



オオハンゴンソウの処理方法

- 1. 根から引き抜く**（根絶するために3年間以上は継続して行いましょう）
引き抜く際はできるだけ根を残さないように、スコップ等で全体を掘上げましょう。
 - 2. 刈り取り**（分布範囲の拡大は防げますが、あくまで応急処置）
種が出来てしまう前に、地上部の刈り取りを行きましょう。
 - 3. 除草剤**
適切な薬量で周りの環境に考慮しながら使用しましょう。
- ※駆除したオオハンゴンソウは、枯死したことが確認できたら、可燃物として処分しましょう。



オオハンゴンソウの 駆除にご協力ください

オオハンゴンソウは「特定外来生物」です

毎年7月から9月頃にかけて、河原や休耕田などで鮮やかな黄色の花を咲かせるオオハンゴンソウ。大きくて見事な花はきれいですが、「特定外来生物」に指定されているので、**自宅の庭や花壇に植えてはいけません。**

特定外来生物ってなに？

人間の手によって生息していなかった場所に持ち込まれ、そこに定着してしまった外国の動植物のことを「外来生物」といいます。

外来生物に罪はありませんが、場合によっては在来の生態系に悪影響を及ぼしたり、農林水産業などに被害を与えてしまうことがあります。

外来生物の中でも、特に影響が大きいと考えられる種を「特定外来生物」として指定し、法律によって被害拡大を防ぐ取組が現在行われており、オオキンケイギクやセアカコケグモ、ヌートリアなどが含まれます。

田んぼや畑などでオオハンゴンソウが生えているのを見かけた場合は、**左の処理方法によって駆除していただくようご協力お願いします。**